

現場第一

—— COVID-19 感染拡大に伴う海外安全の取り組み

“現場”からの意見を尊重し、“現場”における事実状況に基づき、適切な海外安全対策を進めていきたい。

オムロンエキスパートリンク株式会社
リスクマネジメント安全課

RM アソシエイト 櫛田昌徳

地域統括拠点と連携を密に

COVID-19(新型コロナウイルス感染症)については、政府の新型コロナウイルス感染症対策本部から「新型コロナウイルス感染症に関する今後の取組」が8月28日に発表され、感染拡大防止と社会経済活動との両立に向けた道筋が示されている。一方、グローバルに見ると、感染者数が増大している地域、感染拡大防止と社会経済活動の両立に向けた取り組みを進めている地域、すでに感染拡大防止対策が進み感染発生前の状態に戻つつある地域があるなどバラツキがある。

オムロングループにおいても、EMEA(欧州、中東、アフリカ)、北中南米、アジア、中国、韓国の各統括拠点と連携を密に、グローバルに新型コロナウイルス感染予防対策に向けた様々な取り組みを進めている。

「これまでとは違う」、対策を加速

当社における新型コロナウイルス感染対策の取り組みの起点は2019年12月25日、中国統括会社のリスクマネジメント担当者から私への1本の電話連絡だった。中国の担当者とは海外安全対策に加え、BCP対策でも頻繁に連絡を取り合っていたため、次年度のBCPに関することかと推測されたが、感染症対策についての相談であった。年末ぐらいから中国武漢で原因不明の肺炎が発生している旨の情報は耳にはしていたものの、新型とされるインフルエンザなどが一部地域で発生したとの情報は過去から毎年のように入ってきていた。当初はそのような一時的かつ限定的なリスク事象と同様だろうと思惟していたが、中国統括会社との対話を進める中で、「これまでとは違う」感覚をもつようになった。さらに、医療アシスタンス会社、各通信社などからのアラート配信、および在中華



コロナ禍による帯同家族の一時帰国移動時のUSAの空港(左)と航空機内(右)両方とも、ほぼ無人に近い状態

